

ガンコ親父の

昔々、漁師だった若い浦島松次郎は今日も獲物を求めて浜に出かけた。いつものように釣竿を用意していると、遠くの方から子供たちの声が聞こえてきた。松次郎が見に行くとウミガメがいじめられていたので、「こら、いじめるな!」と一喝してカメを子供達から救い出してあげた。助けられたカメは松次郎に何度もお礼を言っ、「お礼に私の家にお招きしたいのですが」と松次郎を誘った。褒美を期待して助けたわけではなかったが、松次郎はカメの誘いを受け入れた。「海の中ですので、私の背中にお乗りください」とカメは言った。泳ぎも潜水も陸上短距離ほど得意ではなかったが、海中を進んでも別に怖くも苦しくもなかった。やがて目的地のリユウグウに着くと、カメは乙姫に変身。助けてくれたたお礼にと大規模な酒宴を開いてくれた。鯛やヒラメが舞い踊る中、黒毛和牛のステーキや伊勢海老の刺身が並び、さらに人気のある黒糖焼酎『しまっちゅ伝蔵』も用意されていた。

久しぶりの宴会だった。松次郎の漁村でも感染症が発生していて、村役人も『三密』を徹底させようと『集団飲酒』には厳しかったので、ついつい喜びすぎてしまったのだ。酔った松次郎は二次会にも行こうと駄々をこね、リユウグウで人気のスナック『貝柱』にまで、みんなを付き合わせた。

あまりの歓待ぶりに松次郎は我を忘れ、リユウグウの長くて夢のような時間を過ごしてしまった。乙姫はこのままでは松次郎が人間としてダメになるのではと心配し、人間社会に帰ってもらうことにした。乙姫は再度ウミガメに変身し、松次郎を背中に乗せて出発した。松次郎は「亀んライダー、なんちゃって」とか、血中アルコール濃度は下がり切っていなかった。浜に帰り着いた松次郎は、リユウグウでの記念になる品が入っているという『玉手箱』をカメから預かった。この中身は人類の科学発展に役立つものだから、決して自分で箱の中身を開けて見ないようにと釘を刺された。「すぐにこの箱を探しに、関係はスタッフがやってくるから、必ずその人に渡してください」とカメは言うて、去った。開けて見てはいけないと言われると、開け

たくなるのが世の常、人の常。好奇心旺盛な松次郎は約束を破って、その場で玉手箱の蓋を開けた。すると、中からは砂煙が舞い上がって松次郎は咳き込み、その場に倒れ込んだ。どれくらい経ったのだろう、気がつけば子供たちの声に取り囲まれていた。「大丈夫かな、このお爺さん。こんなところに倒れ込んで。感染症だったら怖いよね」と一人が心配すると「皮膚はシワだらけだけど、見たところ怪我ないみたいだし、大丈夫だろう」と違う子が言った。

松次郎は「毛がなくて悪かったな!」と文句を言ったところで目を覚ました。よく見ると、息子の学が「また、親父はテレビニュース見ながら寝てしまつて。いい加減にしないと風邪引くぞ。ハヤブサ2も無事還ったことだし、よかったら一杯注ごうか?」と言った。

25度
好評発売中



喜界島酒造株式会社
鹿児島県大島郡喜界町赤連296番地12
☎0997(65)0251



900ml (25度)



1800ml (25度)



1800ml (25度)

昔ながらの手造り こだわり焼酎

喜界島の肥沃な大地の恵と豊かな自然の中で、永年の伝統に受け継がれた製法でじっくりと醸しあげた『しまっちゅ伝蔵』黒糖焼酎の味を全面に出し昔ながらのコクのある味と香りです。

常圧蒸留

しまっちゅ
伝蔵
でん
どう

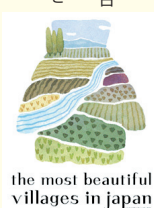
奄美黒糖焼酎



<http://www.kurochu.jp>

お酒は20歳になってから。お酒は楽しく適量を。飲酒運転は法律で禁止されています。妊娠中や授乳期の飲酒はお控えください。

「リユウグウ」に乾杯!!



the most beautiful
villages in japan

喜界町
鹿児島県